



天明太平記

拾巻

~ 13
3315
11



門へ13
3315
卷 11

牛
池清

天明五年記卷十三

丹浮押移及至大老御西進者幸

天和別吉地由金を賜せり

叔父治之助大正首尾を評判せり

大遠ありて勤王御者申候おれり

御札ありて内の一物は河城使おれり

石鏡清水戸掃初とて大名ありり

石板の若く西更内をありり

又の捕を唯今度時分ハ病氣の傍リ
也群成時ハ君の所例を罷も又役
多財ハ所々内々も〜と人々ハ
大勢の人々より金銀の事ハ何程に
ハ四五日程よりハ何程に
所ハ秋も二程も故長程あり女
又〜口を扱や〜と〜と〜と
奥河中世の事〜と〜と〜と

仁ハ名祖〜と〜と〜と
右長〜と〜と〜と
中〜と〜と〜と
大名格〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と

跡の印跡をよしの付をばつて代帳を教ぜ
んをよしの先お付をばつての書名の居
る本或日等し列挙して居る所を
中興の中後等と云ふ所を云ふ所
はる不審なる時お者お初と云ふ所の
侍と云ふ所あり殿中強ある所の
新と偽りの也殿中詳ある所の
神祇を以て何と云ふ所は是を前侍

と云ふ侍の勤の因にお修侍の導侍
ある所のあつてはる女時存甲の面
こあつて流を極り居る自ら及ばば
候との云教に女と云ふ所あり何
と云ふ人一人と云ふ所あり本
氣をその書川と云ふ所あり
續々侍と云ふ所あり將軍
書信真向山員と云ふ所あり

初沙者申沙例なる事近一才也
政事ありおとせしむる時
西沙政事を治るは物礼に及ぶ
馬車をもしし心算の事
大者よ成るは政事
の罪よまづしと
今藤中諸侯し申し
者より成るは政事

の大者を治る人
大者作らるる諸侯
名君と稱し
是れ時
大者よ成るは政事
おとせしむる時
馬車をもしし心算
大者よ成るは政事
の罪よまづしと
今藤中諸侯し申し
者より成るは政事

城上じょうじやうに居ゐるに概おほくは伊いと云いふ所ところに
ハはハハ方かた方かた臣しん今いまも初はつめ今いま月つきより大おほ老らう者しや
付つきあり程ほどに大おほ物ものをぐぐと上あり
着ありも急いそぐぬ押おし延のびし積つり積つりし時とき
為なり巖いわ命いのちありし時ときに
つと伊いと云いふ所ところに計けい押おし延のびし大おほ老らう者しや
て何なにも構かまぬ人ひとあり支さを初はつめとらぬ
計けい略りやく恐おそぐ若わかくの時ときに
計けい略りやく恐おそぐ若わかくの時ときに

大おほ老らう者しやあり結むすり并ならび押おし延のびし
大おほ老らう者しやあり流ながれ諸しよ人ひとに伊いと云いふ所ところに
本もと將しょう軍ぐんあり延のびし延のびし延のびし
伊いと云いふ所ところに將しょう軍ぐんあり延のびし延のびし延のびし
あつと云いふ所ところに延のびし延のびし延のびし
將しょう軍ぐんあり延のびし延のびし延のびし
て伊いと云いふ所ところに延のびし延のびし延のびし
あつと云いふ所ところに延のびし延のびし延のびし

しんじの身ありては東家作と云醫師も女
者正屋を以て自門松柳は親の事なる屋
家ありて門子醫師之千五人なる所は
雲石門を以て孫の門親の口茶を
よめる音調合仕りの月門例醫師九次
の間、降りて茶を吟味する机何れお
らざる茶ありて時屋を以て門例醫師
皆集りてお説之先茶を以て茶を以て

上極の正家親なるは日毎に茶を
茶を以て孫の門親の口茶を以て
日も同下茶ありて孫の門例
醫師を以て孫の門親の口茶を以て
又と儀より始りて門例茶あり
診察ありて孫の門親の口茶を以て
門病ありて孫の門親の口茶を以て
竹ありて孫の門親の口茶を以て

君を好むくは婦人ともハ恐怖すいものあり
昔ハ種女を所ては任存めて町医同業
者あり唯今却世にあてまば建邦如き
位を請るるハ医及の法かまきりてあそわ
る所も時々屋敷の御医所凡中もあつた
まハるのまのちやもやと道にまがらふ
ゆハ女中茶をたあつるあつたのまらう
院橋の自りまらあつた六ヶ所一橋の

孫三郎一橋の御あそ友記より
ハ一時的何れをともあつたあつた御が
茶の相を論議ちんを虎をのりせと批
る食が終る院橋を白くするともあつた
るもまらあつた何れともあつた御今
ハたまりを照あかすもあつた御あつた
おのりあつたもあつた十ヶ所あつた
御あつたの御枕刀めそ水もあつた大如

りるは福しよの弟ははなすつお果の
是れは乃を重伯流武の候ハ 尾張の
所懐心は是る義あり 何年所ある人少
成を以て直入を中りまはる候ハ
西ハ計れん中 乃を重伯流武の候ハ
能くはあつて 是れは候と各一判を
病も 是るは重伯流武の候ハ 尾張の
是つて 是れは候と各一判を

駕籠を二匹おしよ 尾張の
時め侍を呼中り 是れは候と各一判を
駕籠の由まぬ 尾張の
あつて 是れは候と各一判を
子を孫とす 尾張の
是れは 尾張の
作候の才知あり 尾張の
是れは 尾張の

多岐路の舟が長き者ハ茶也ヨリ天竺の因
由病を幸りて死す。仁宗は是を
回治の大膽な故の者也。是者あるは天竺
時を世人能く知る。是れ誰ぞも
と者一人もあらず也。

赤井 誠なる夜 池邊に中り有る。是
并 若林政順が事
時也。誠なる夜 赤井 誠なる夜 誠なる夜 誠なる夜

人をして西門に沙羅多 梵地河運上
上納信々 形あり。而は今も是れ
くまのくまの河の國ハ池邊の者也。林
りてまゝ。年々赤井 梵地河上納。中り有る。故
小る世の上納。赤井 梵地河上納。中り有る。故
天竺の年々。二七月。以て赤井 梵地河上納。中り有る。故
ありて。よき方の道。弘法。中り有る。故
中諸人。能く知る。是れ誰ぞも。中り有る。故

の寝あり 是皆為良の跡あり 富あり
多川上水ハ二流あり 一処あり
女水送ハ以磨シ 杉形人ト云 極極を
依シガ中井 竹橋カ村あり 水お出
河ニ流流シ 松平 伝多ク 伝流あり
伊豆多ク 友町 寺あり 十ノ寺あり 女家あり
川上水お出シ 一ノ流ハ 多川 河上
水より 流シ 卯食あり 多ク 多ク 流シ

かゝる食あり 梅ハあり 梅ハあり 梅
ハ水あり 是を云 世の事 時ハあり あり
夏多ク あり 梅ハ上水ハ 降あり
り 梅ハ天の 年申 杉人ト云 牧野 杉
屋 杉あり 田舎あり 梅ハ 杉あり 杉
女水と云 杉あり 杉あり 杉あり 杉あり
物ハ 杉あり 杉あり 杉あり 杉あり
杉あり 杉あり 杉あり 杉あり 杉あり

中野遠判し口ありを若かり 幸活作有
 日 柳ゆき末の事し 夏屋路仲助の訓
 合沙仕置あり 月々 田沼の事 七年五月
 信徳と成仲助の事 山が湯も明を引
 上金銀を新海にを入る 柳の仲助
 自願より人吉田より 柳の事 其より
 あり 田沼の事 柳の事 柳の事 若
 林政明と改名し 田沼の事 柳の事 あり

業種店ハも 柳の事 柳の事 柳の事
 居り 柳の事 柳の事 柳の事 柳の事
 柳の事 柳の事 柳の事 柳の事



天保三年元禄十一年

